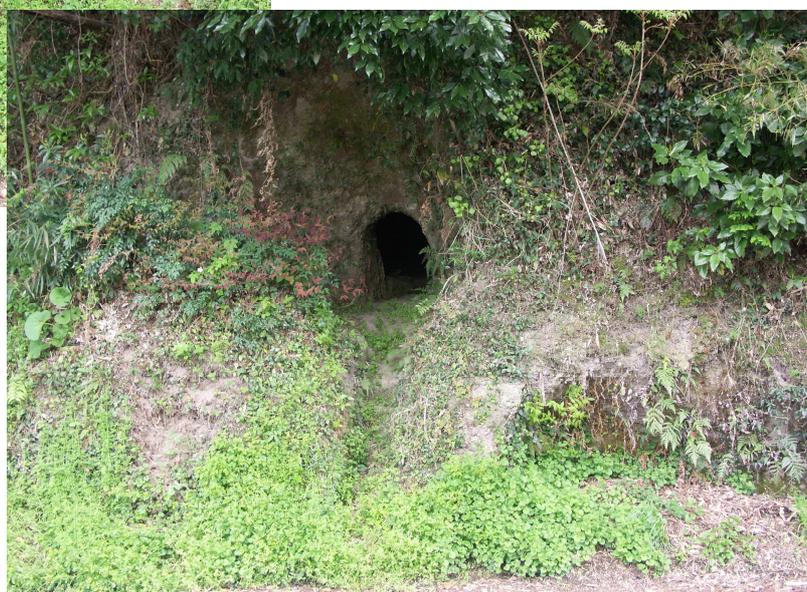


市指定文化財<史跡>

瀬戸口横穴群

指定日 昭和49年4月1日

所在地 菊池市七城町瀬戸口・台



ここは、迫間川と木野川に挟まれた^{うてな}台地西端の阿蘇溶結凝灰岩の崖面に開口している。横穴は、「瀬戸口百穴」と呼ばれ、水島集落の北側から山鹿市菊鹿町境の豊水^{そうず}まで約1.3kmにわたって分布している。

この土質は崩れやすく、400基以上あったといわれていたが、専門家の調査では252基程度という。現存する横穴群の中で、数の多いことでは有名である。

6世紀中葉から7世紀頃のもので、この中の2基からは多数の亀甲が発見され、古代の^{きぼく}亀卜との関連から注目されている。

多くは複室、全面丹塗りで「コ」の字型の^{ししゅう}屍床を持ち、天井部は切妻・寄棟、丸天井となっている。

県道熊本菊鹿線の改良に伴い発掘調査が実施され、主な出土品は人骨、高坏、椀、金銀環、^{てつそく}鉄鏃、刀子、鉄斧、貝輪、玉類、耳環、馬具等である。副葬品や土師器、須恵器が出土している。